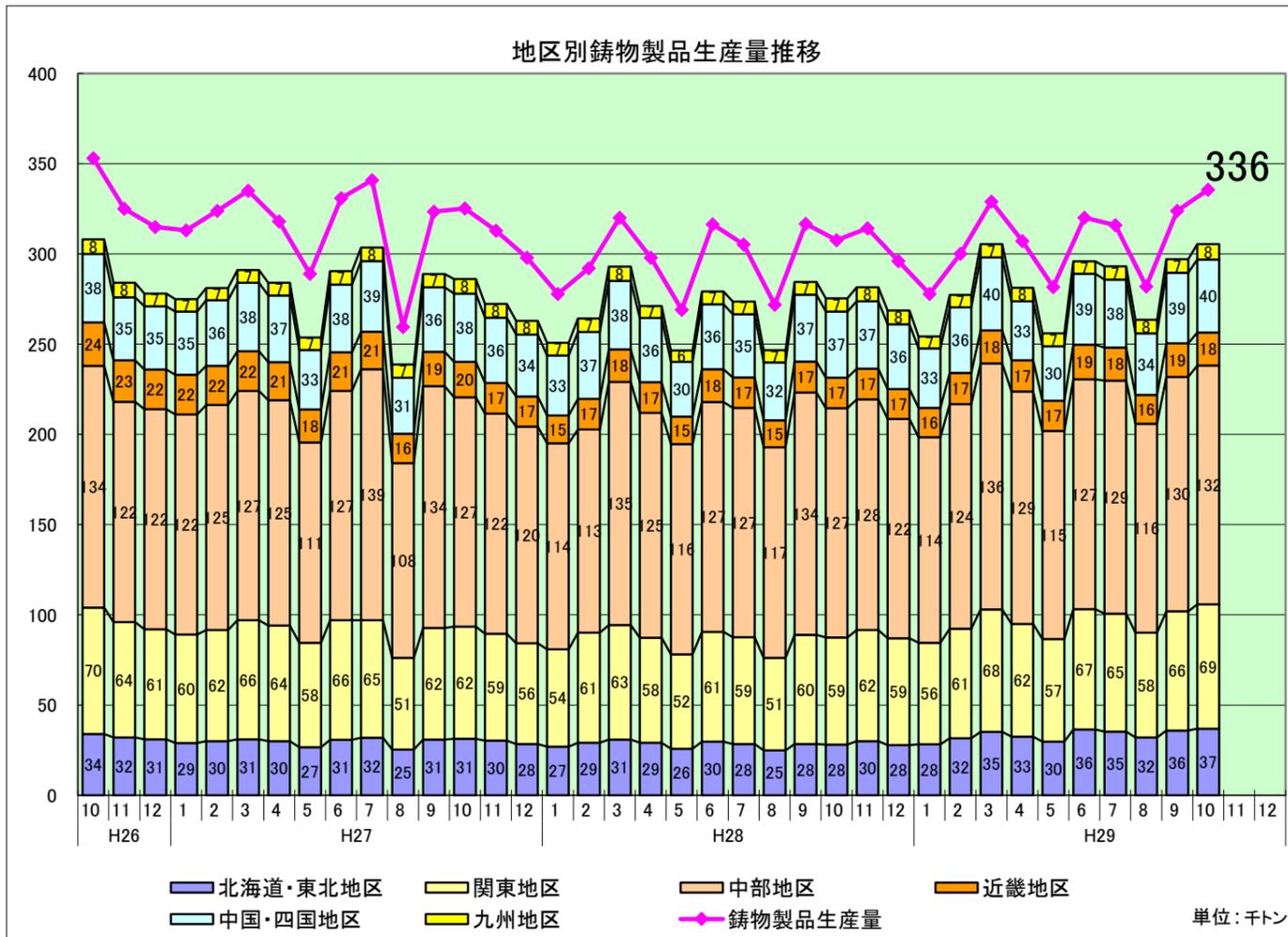


V. 地区別鋳物製品生産量推移(単位:千ト)



V. 総括 (各連盟・協会・工業会ホームページ参照)

【経済動向】

・11月の世界粗鋼生産量(速報)は前年同月+3.7%の1億3,628万トンとなった。世界最大の生産国である中国は前年同月+2.2%の6,615万トン。
 ・粗鋼生産は870.2万トン(前月比26.9万トン・3.0%減、前年同月比1.0%増)となり、前年同月比では2カ月振りの増加となった。
 ・炉別生産をみると、転炉鋼が648.1万トンと前月比3.2%減、前年同月比1.4%減、電炉鋼が222.2万トンと同2.3%減、同8.6%増となり、前年同月比でみると転炉鋼は7カ月連続の減少、電炉鋼は14カ月連続の増加となった。
 ・鋼種別生産では、普通鋼が662.4万トンと前月比3.4%減、前年同月比0.1%減、特殊鋼が207.8万トンと同1.7%減、同4.4%増となり、前年同月比では普通鋼は2カ月連続の減少、特殊鋼は2カ月振りの増加となった。(日本鉄鋼連盟)

【自動車】

・12月の新車販売台数(軽自動車含む)は、前年同月比0.8%減の39万4254台と3カ月連続で減少した。無資格検査問題が発覚した日産自動車やSUBARUの販売減少が続いたことが影響した。
 ・2017年通年の新車販売台数(軽自動車含む)は、前の年比5.3%増の523万4166台だった。増加するのは3年ぶり。登録率は4.5%増の339万824台だった。「年後半に無資格検査問題があったものの、通年では景気回復もあって財布のひもが緩くなった恩恵があったようだ」(自販連)という。軽自動車は6.8%増の184万3342台だった。前の年の燃費不正問題による販売減の反動があったという。(日経新聞)

【鋳工業生産】

・11月の鋳工業生産指数速報値(2010年=100、季節調整済み)は103.6と前月比0.6%上昇した。上昇は2カ月連続。世界経済の回復による輸出拡大を受けて業務用機械などの生産が増えた。基調判断は、「16年11月~17年10月まで続いた「持ち直しの動きがみられる」から、「持ち直している」に1年ぶりに上方修正した。
 ・基調判断で今回の表現を使用するのは、1995年12月分以来となる。生産指数は今年に入り、2014年4月の消費税増税前の駆け込み需要期に並ぶ水準をたびたび記録しており、経産省は「企業による設備投資の需要が下支えし、ここ数年にない勢いが続いている」(調査統計グループ)と上方修正の理由を説明した。(日経新聞)

【工作機械】

・11月の受注額(確報値)は単月で初めて1500億円を突破し、10年ぶりの年間最高の更新が濃厚になった。失速が懸念された中国向けが大きく伸び、スマートフォン(スマホ)以外にも需要が波及。自動化など「工場の進化」への投資も。
 ・足元の市場をけん引するスマホ向けに加え、自動車などスマホ以外の分野も確実に伸びてきている。自動車向けが主力のツガミは11月の海外向け受注高が前年から75%増えた。他のメーカーも「現地の営業は強気」(牧野フライス製作所)「今のところ落ちる要素が見当たらない」(オークマ)と鼻息は荒い。(日経新聞)

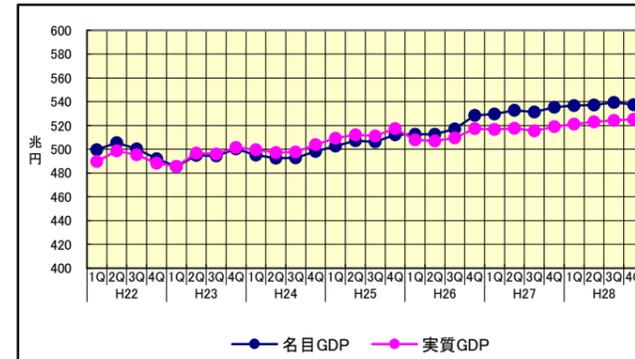
【造船】

・10月の起工量は前年同月比32.6%増の86万G/Tと2カ月ぶりに増加した。
 ・11月の輸出船契約量は前年同月比2.9倍の99万G/Tと11カ月連続で増加した。
 ・11月末の手持工事量は前月末比0.7%増の2,740万G/Tと2カ月連続で増加した。(日本鉄鋼連盟)

※各数値は1月10日発表分まで

I. 国内経済動向

①内閣府 国内総生産額(平成23年暦年連鎖価格)



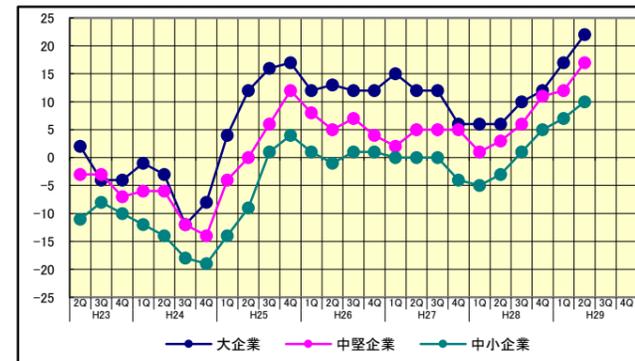
・2017年1-3月期、2次速報の名目GDPは537.4兆円
 ・名目GDPの成長率は-0.3%(年率1.1%)

②財務省 貿易統計(貿易・通関(兆円))



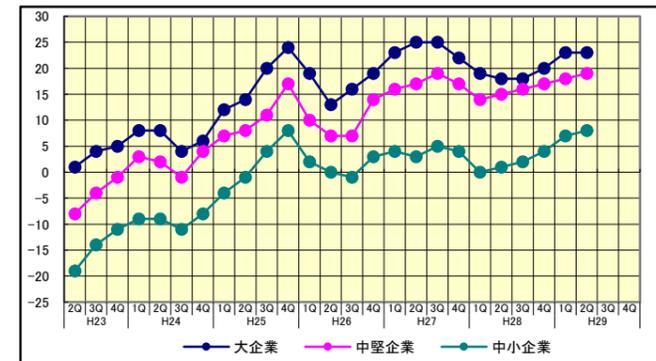
・輸出超過1,121億円。以下、変化率上位
 ・輸出:前年同月比+16.2%。鉱物性燃料(+50.7%)、原料品(+25.1%)
 ・輸入:前年同月比+17.2%。電気機器(+27.5%)、原料品(+23.9%)

③日銀短観<製造業>(業況判断DI=「良い」-「悪い」)



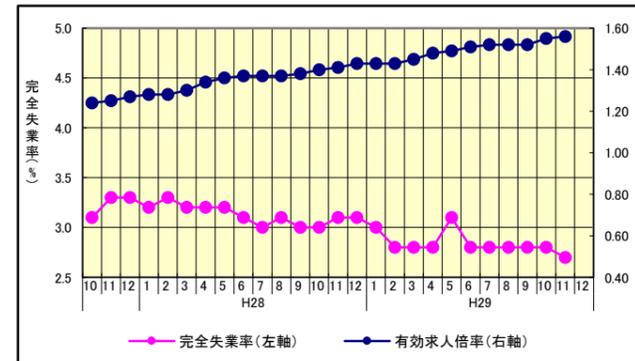
・大企業、中堅企業、中小企業ともに上昇。先行きDIは大企業、中堅企業、中小企業それぞれ低下となっている。

④日銀短観<非製造業>(業況判断DI)



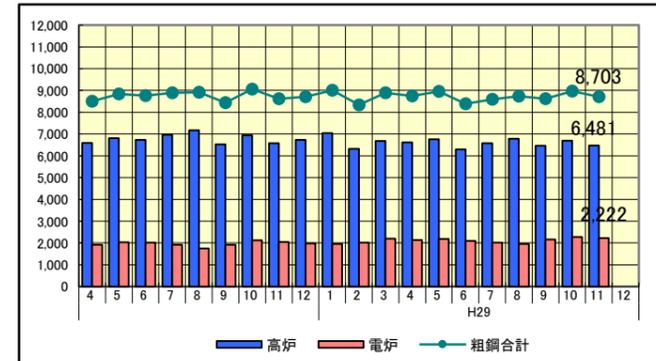
・中堅企業、中小企業ともに上昇、大手企業は横ばい。先行きDIは大企業、中堅企業、中小企業それぞれ低下となっている。

⑤労働雇用状況(失業率・求人倍率) 厚生労働省



・有効求人倍率は前月0.01ポイント上昇、1.56倍
 ・完全失業率は前月0.1ポイント低下の2.7%
 ・完全失業者数は前年同月比-19万人の178万人

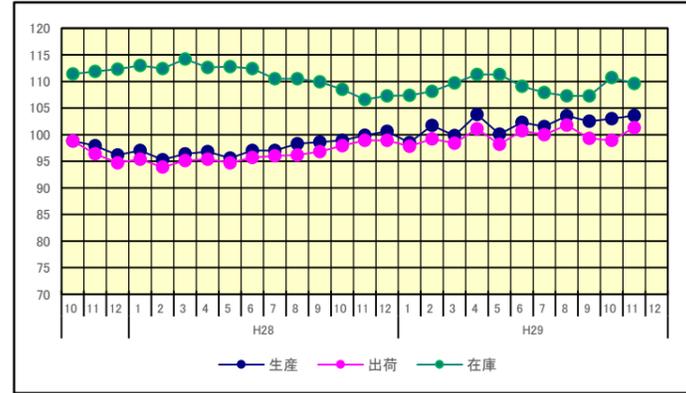
①鉄鋼(粗鋼)生産量(千ト) 日本鉄鋼連盟



・粗鋼生産量は870.2万トン
 ・炉別生産では高炉-1.4%、電炉+8.6%(前年同月比)

Ⅲ. 国内需要動向

① 鉱工業生産・出荷・在庫推移 経済産業省



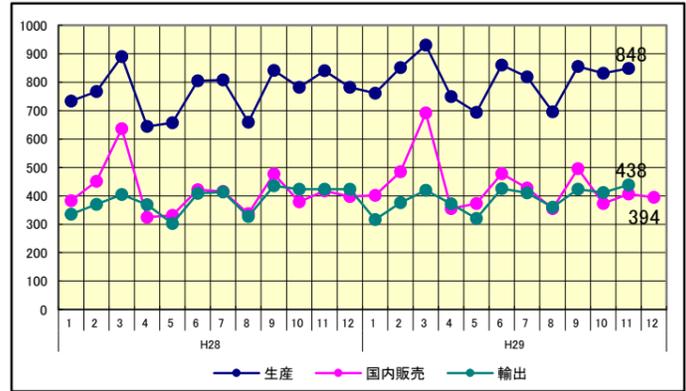
・11月速報値は前月と比べ生産、出荷は上昇、在庫は低下。
 ・予測調査は12月は上昇、1月は低下を予測。総じてみれば生産は持ち直している、としている
 (H25.4月まではH17=100、H25.5月以降は基準改定によりH22=100)
 (経済産業省)

② 機械受注額推移(億円) 内閣府



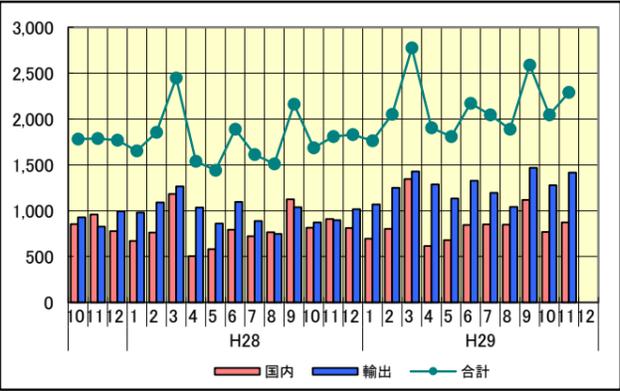
・受注総額は2兆4,509億円、前月比+5.6%(以下前月比)
 ・民需(船・電除外)は、全体で+5.0%の8,509億円。その内、製造業は+7.4%の4,213億円、非製造業は+1.1%の4,377億円。
 (内閣府)

③ 自動車生産・国内販売・輸出台数(千台) 日本自動車工業会



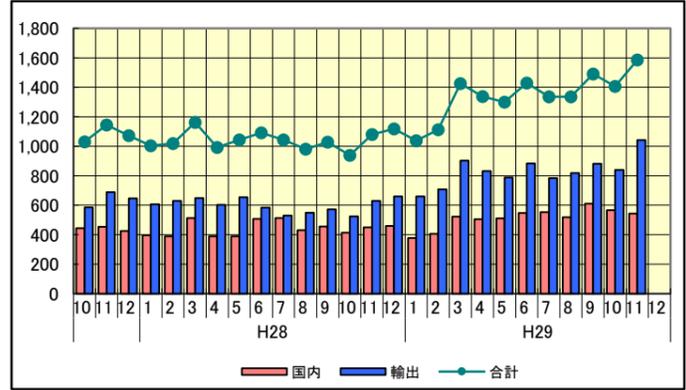
・生産は前年同月比+0.9%となり、13か月連続で前年同月を上回った。
【車種別生産台数】(以下前年同月比)
 ・乗用車-0.1%:普通車+0.6%、小型四輪車-12.3%、軽四輪車+14.6%
 ・トラック+7.3%:普通車+13.6%、小型四輪車-17.7%、軽四輪車+19.1%
 ・バス+4.6%
 (日本自動車工業会)

④ 建設機械出荷金額(億円) 日本建設機械工業会



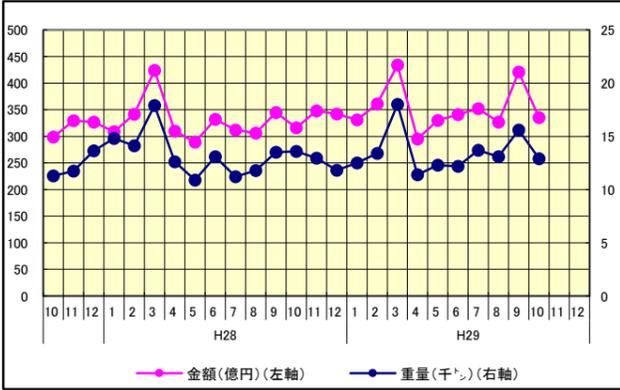
・出荷金額合計は、前年同月比+26.6%(以下前年同月比)。
 ・内需は-4.2%、外需は+57.9%となり、内需は3か月連続の減少、外需は13か月連続の増加。
 (日本建設機械工業会)

⑤ 工作機械受注金額(億円) 日本工作機械工業会



・内需は+20.8%の543億円、外需は+65.4%の1,042億円
 ・合計で1,585億円は+46.8%(前年同月比)
 (日本工作機械工業会)

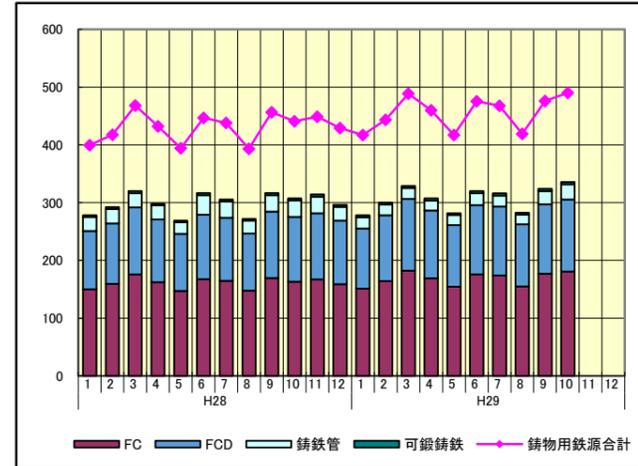
⑥ 金型生産金額・重量(億円・千トン) 日本金型工業会



・金額+5.9%、重量-5.3%(前年同月比)
 ・粉末冶金型(金額+29.4%、重量+32.4%)
 鋳造型(金額+29.8%、重量+30.0%)
 (日本金型工業会)

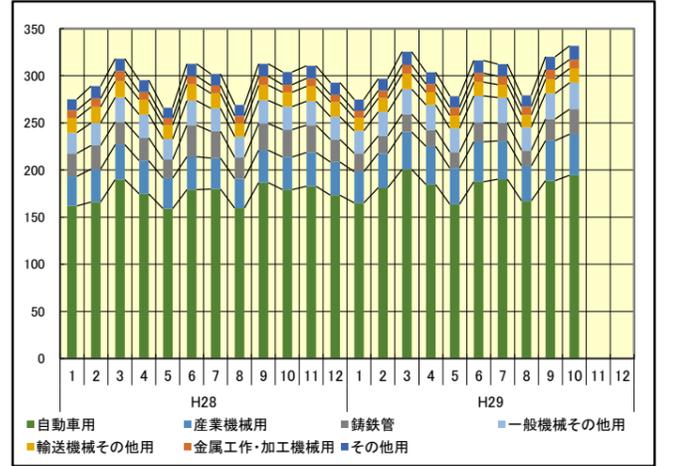
Ⅳ. 鑄造業界動向

① 鑄物製品生産量・鉄源使用量(千ト) 日本鉄鋼連盟



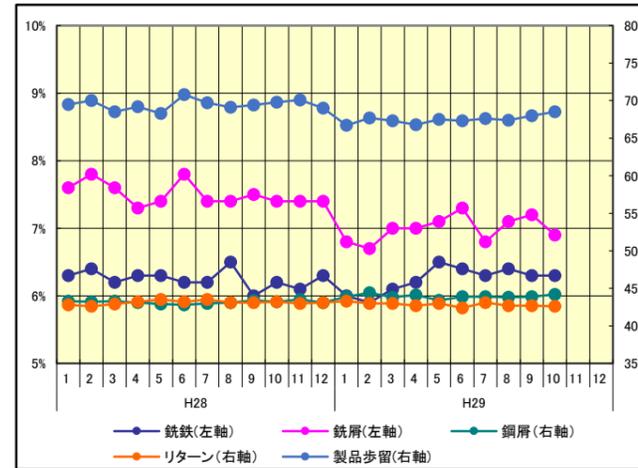
・鑄物製品生産量は33万トンとなり、前月比+3.6%
 ・原材料消費49万トン、前月比+3.0%
 (日本鉄鋼連盟)

② 鉄鉄鑄物製品部門別生産実績(千ト) 日本鉄鋼連盟



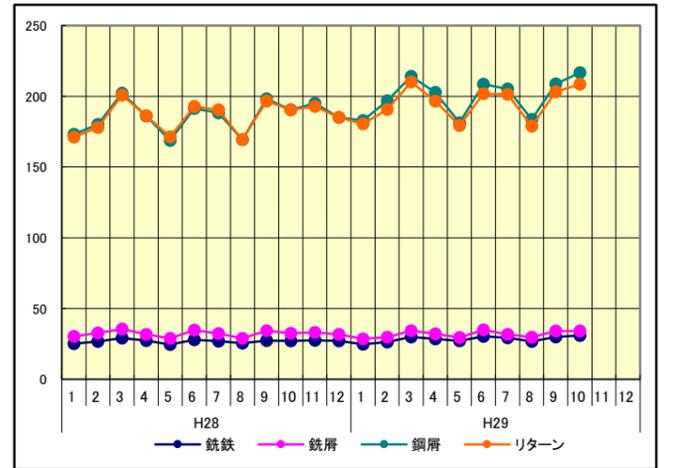
・一般機械用:産業機械用+3.4%、金属工作・加工機械用-4.9%、一般機械用その他+2.8%
 ・輸送機械用:自動車用+3.0%、輸送機械用その他+0.7%
 ・鑄鉄管+14.3%、その他+5.6%
 (全て前月比)
 (日本鉄鋼連盟)

③ 鑄物用鉄源配合比率(%) 日本鉄鋼連盟



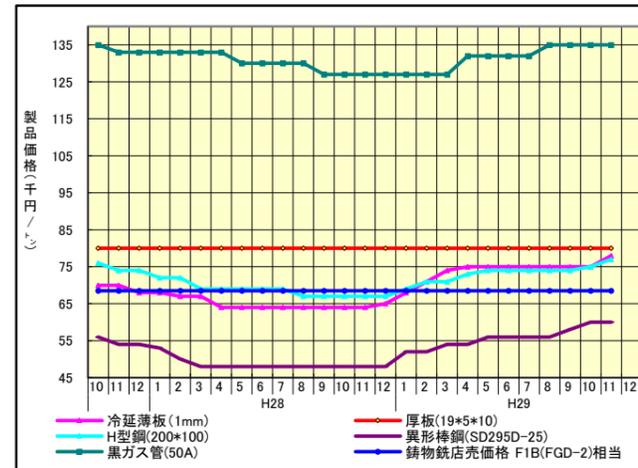
・前月比、鋼屑が増、鉄屑、リターン減、鉄鉄変わらず。
 製品歩留は増。
 (日本鉄鋼連盟)

④ 鑄物用鉄源使用内訳(千ト) 日本鉄鋼連盟



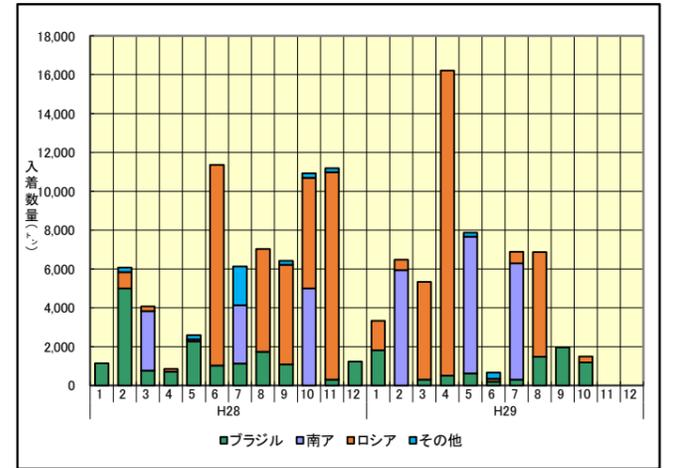
・原材料消費、以下内約(前月比)
 鉄鉄+3.5%、鉄屑-0.3%、鋼屑+3.8%、リターン+2.6%
 (日本鉄鋼連盟)

⑤ 鉄鋼主要品種市況推移 産業新聞



・11月、冷延薄板、H型钢上昇。ほか変わらず。
 (産業新聞)

⑥ 輸入鉄入着量 財務省「通関統計」



・10月輸入鉄入着、ブラジル1,185t、ロシア310t。
 (財務省)